

【林道事業（県事業） 事後評価審議資料】

○事後評価実施箇所一覧表	・・・p. 1
○事後評価箇所表	・・・p. 3
○説明資料（パワーポイント）	
⑦ 公共林道事業 「加茂東」	・・・p. 7

令和4年度 事後評価実施箇所一覧表 11月16日審議箇所

[林政部 森林経営課]

番号	担当課名	事業		完了 年度	事業 採択 年度	全体事業費 (百万円)		事業名	路線・地区・河川名等	実施箇所 (市町村名)	対応方針(案)		
		補助・ 交付金	県単			上段：当初 下段：最終	今後の事後評価の 必要性				改善措置の必要性	新規事業へ適用すべき留意点	
7	森林経営課	○		R2	H5	6,010	4,906	公共林道事業	かほがし 加茂東	加茂郡 白川町 東白川村	今の段階では 必要なし	今の段階では 必要なし	・早期に効果が発現される林道整備 の計画策定。 ・多様化する森林の利用形態を見越 し、地元調整のうえ計画策定する。

令和4年度事後評価箇所表

担当課〔森林経営課〕

番号	7	事業名 (路線・河川名等)	公共林道事業 (林道 加茂東線)
事業実施箇所	起点：加茂郡白川町三川 終点：加茂郡東白川村神土	全体事業費	(当初6,010百万円) 4,906百万円
採択年度	平成5年度	完了年度	令和2年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの		
事業目的	<p>林道加茂東線は、白川町三川と東白川村神土を連絡する林道。周辺森林1,574haにおける効率的な林業経営の基盤として、木材の搬出や高性能林業機械が搬入できる幹線林道を整備し、適正な森林管理の促進に寄与することを目的とする。</p>		
事業概要	<p>幅員W=4.0～5.0m、延長L=25,486m、全体事業費4,906百万円 利用区域森林面積 1,574ha 同蓄積 357,561m³ 主要構造物：アスファルト舗装、路側構造物（重力式擁壁、補強土壁、ブロック積）、法面保護工</p>		
概要図	<p>The map shows the project route (加茂東線) connecting Shikawa (白川町三川) and Kamakura (東白川村神土). Key landmarks include National Route 256 (国道256号) and National Route 41 (国道41号). An inset map shows the location within the Kamaoka region. A photo labeled '整備後の状況' (Status after improvement) shows a paved road with guardrails.</p>		

評価結果	
① 住民参加・協働による効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元住民や林業関係者による草刈りや側溝清掃等の施設維持活動の実施。 ・ <small>むそれやま</small> 無反山や <small>すてなぎさん</small> 捨難山への登山のレクリエーション活動拠点としての利用。 ・ 森林整備空間を利用した森林レンタルサービスが、森林の新たな利用法として注目を集めている。
② 事業の効果	<p>○適正な森林管理と効率的な林業経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林道加茂東線が完成したことにより、林道を起点にした作業道が開設され、ハーベスタ等の高性能林業機械を搬入し、林道周辺の木材を効率的に搬出できるエリアとなった。 ・ 林道整備により、利用区域内に15団地、531haの森林経営計画が立てられ、作業道20,756mの開設、426haの間伐により約2万1千m³の木材が搬出された。 今後は、これまで間伐を実施してきた人工林が伐期に達するため、主伐へと移行していく。 ・ 伐採された木材は、白川町側は「東濃ヒノキ白川市場」へ、東白川村側は「東白川村森林組合市場」へと運搬。林道と市場までの距離が短くなったため、効率的かつ低コストで搬出されている。販売された材は優良な柱材として、主に県内の製材業者に販売されている。 <p>○費用対効果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業効果を分析の結果、投資的効果率は1.3。
③ 環境面への配慮	<p>○現地発生土が利用可能な路側擁壁工を採用</p> <p>補強土壁工は現地発生土が利用できるため、現場外搬出に伴う建設機械の稼働の縮減がはかられた。</p> <p>○木製品の活用</p> <p>木製品の活用は、炭素固定としての役割を担っていると同時に地域材の利用により、森林整備促進への寄与が期待される。</p>
④ 事業を巡る社会経済情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウッドショック（価格・急激な需要の変動）の影響による国産材の再認識 ・ 森林空間を多様な分野で活用する取り組みへの期待の高まり <p>○取り組み状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主伐の推進 ② 白川LSC（ローカル・サプライ・チェーン）システムの構築推進 ③ 森林サービス産業の推進（上級キャンパー向け森林レンタルサービス）

⑤利用者・地域住民等への効果

○地域住民へのアンケート結果

地域住民の7割が利用したことがあると回答があった。また、林道の開設に伴い歩行時間の短縮、森林整備促進に伴う森林のもつ多面的機能の維持増進、木材の付加価値を高めることに寄与している。

⑥対応方針（案）

○今後の事業評価の必要性

森林整備が計画的に実施されており、今後継続して計画されていることから、今の段階では、今後の事業評価は必要なしと判断する。

○改善措置の必要性

林業関係者に林道の事業効果が十分認識されていることから、今の段階では、改善措置の必要はなしと判断する。

○新規事業に適用すべき留意点

早期に効果が発現される林道の整備計画を市町村と協調し策定すること。

森林の利用形態が多様化するなか、森林整備以外の目的を想定し地元住民、市町村や関係者と調整し計画策定することが必要。

事後評価 公共林道事業

林道 加茂東線



位置図



事業概要 (1)





<事業目的>

林道周辺森林の効率的な林業経営の基盤として、木材の搬出や高性能林業機械を導入できる幹線林道を整備し、適正な森林管理の促進に寄与する。

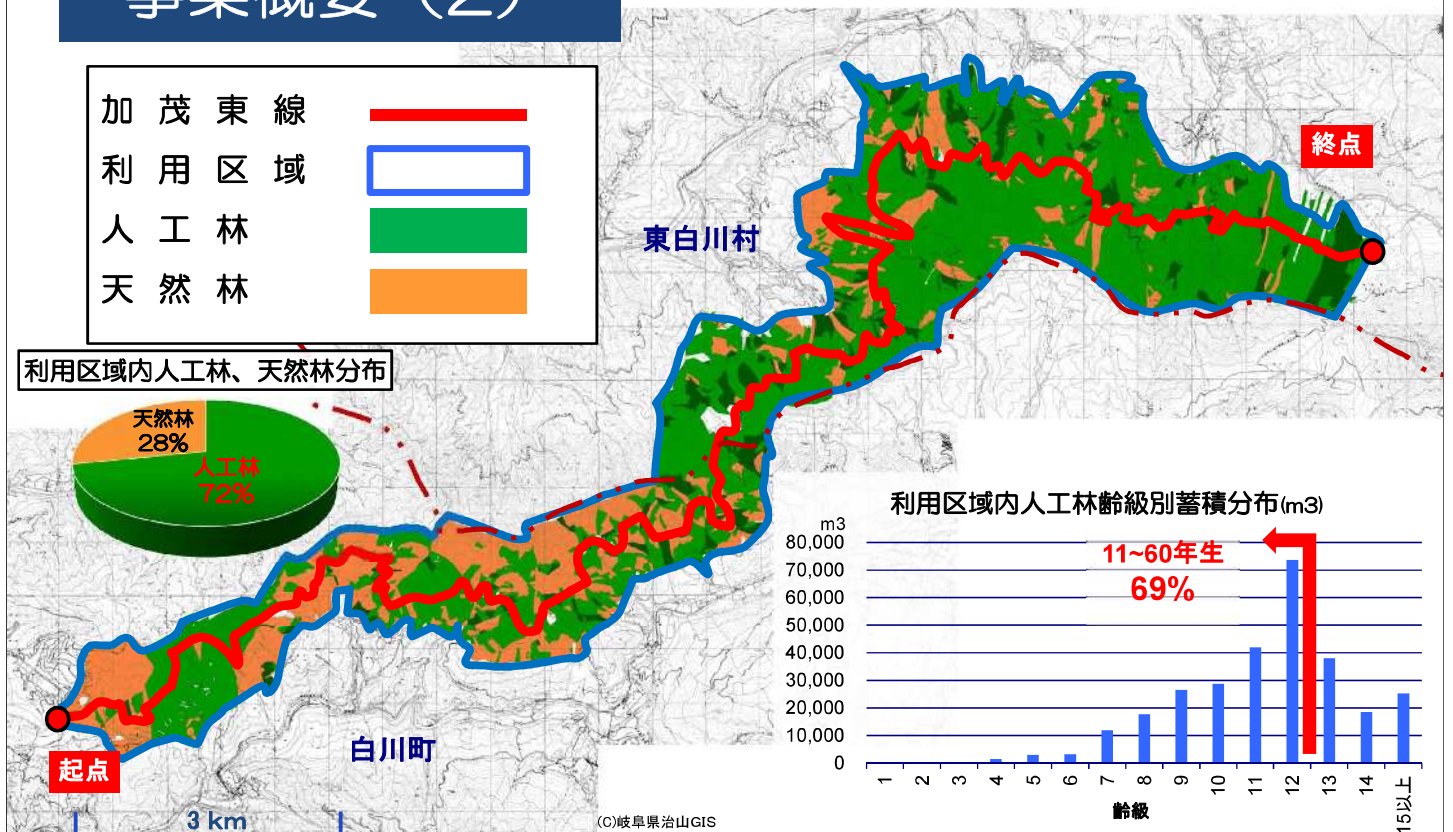
<概要>

- 起 終 点 : 加茂郡白川町三川～加茂郡東白川村神土
- 延 長 : 25,486m
- 総事業費 : 4,906百万円
- 事業期間 : 平成5年～令和2年 (27年間)
- 幅 員 : 4.0 m及び5.0 m
- 利用区域 : 面積 1,574 ha
森林蓄積 357,561m³

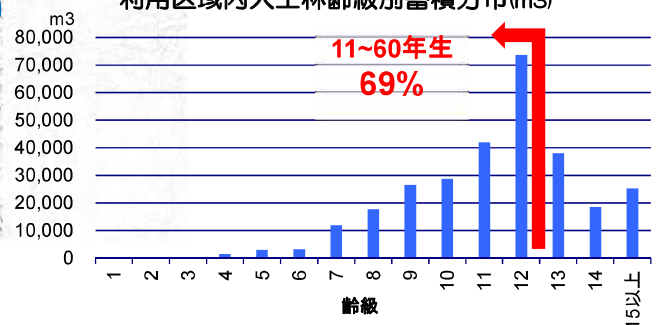
事業概要 (2)

- 加茂東線 
- 利用区域 
- 人工林 
- 天然林 

利用区域内人工林、天然林分布



利用区域内人工林年齢別蓄積分布(m³)



住民の参加・協働による効果

住民参加・
協働

草刈り作業(森林所有者等)



林道維持管理(森林所有者等)



住民活用

地元小学校による無反山登山



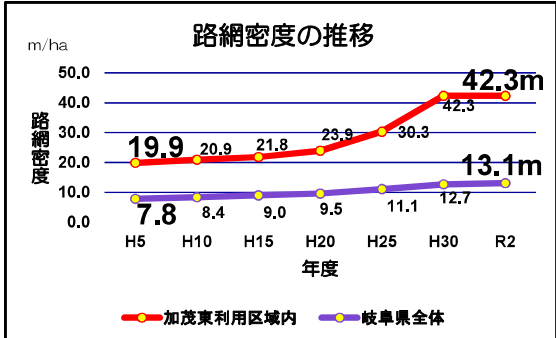
森林レンタル(新たな活用)



事業の効果 (適正な森林整備の促進)

利用区域内の実績(H25~R3)

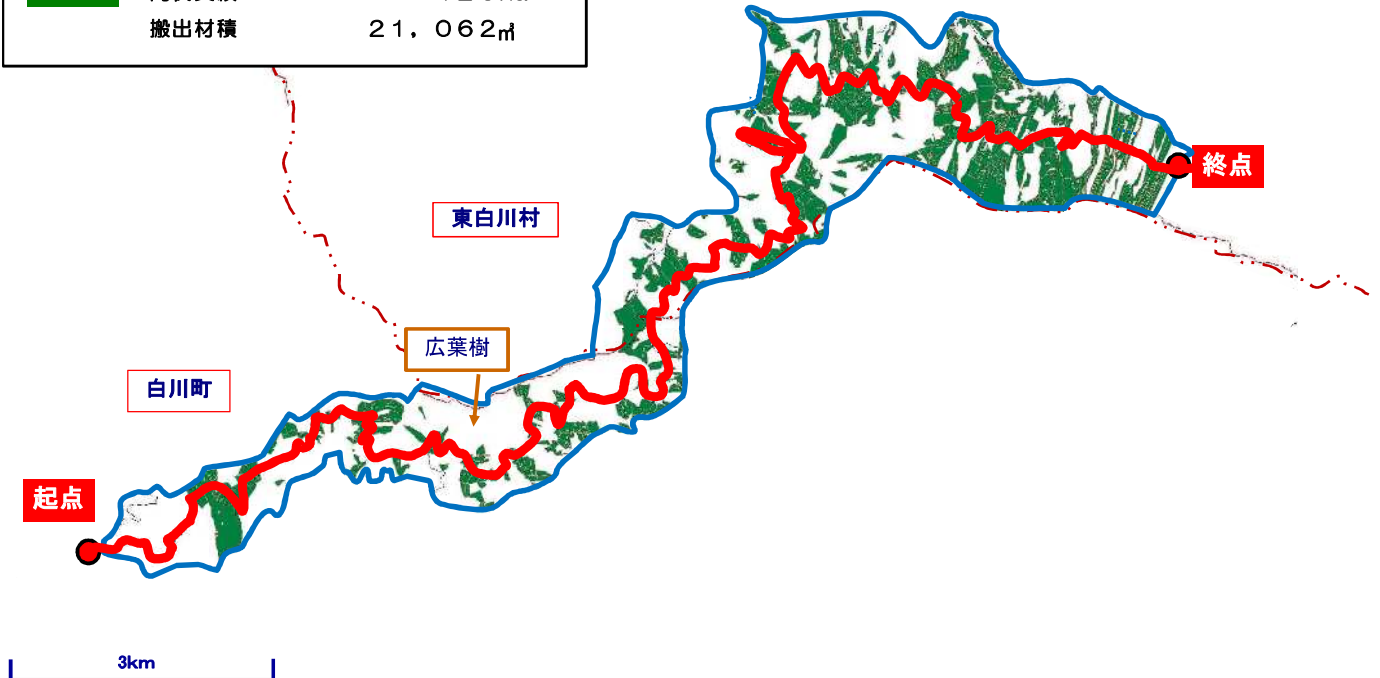
- 利用区域 1,574ha
- 経営計画区域 531ha
- 経営計画(予定)
- 作業道 20,756m



事業の効果（適正な森林整備の促進）

利用区域内の実績(H25~R3)

間伐実績	426ha
搬出材積	21,062m



事業の効果（木材の搬出）



費用対効果分析

事業の効果

- 木材生産等便益 (伐採輸送経費等の縮減効果等) 効果全体の18%
- 森林整備経費縮減等便益 (往復時間短縮経費縮減効果、森林の公益的機能の増進効果等) 効果全体の82%

投資的效果

効果額

= 1.3

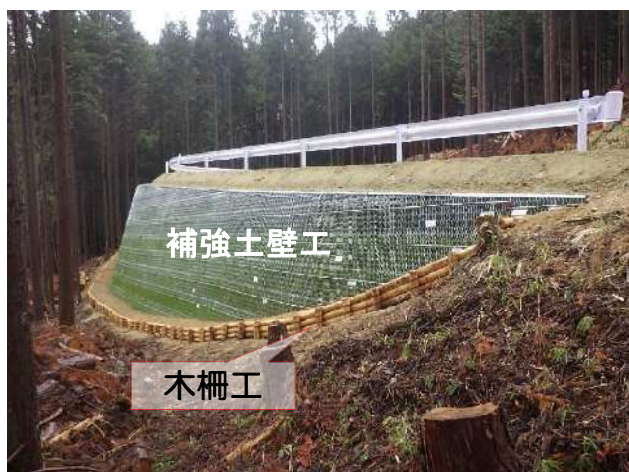
事業費

事業期間の延長と事業費の増による変動

前回評価時
(H30年度)
1.5

(林野公共事業における事業評価マニュアル (R4.6) に基づき算出)

環境面への配慮



- 発生土利用が可能な路側擁壁工（補強土壁工）の採用
開設時に発生する現地発生土を利用し現場外運搬など（建設機械稼働）の縮減
- 木製品の活用
炭素固定、間伐材の活用

事業をめぐる社会経済情勢等の変化

○社会経済情勢等の変化

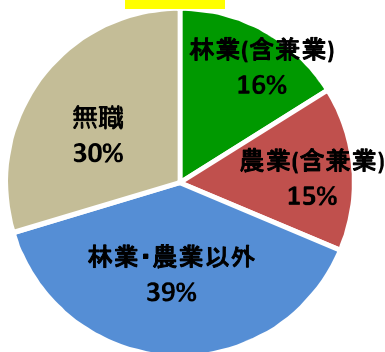
- ・ウッドショック（価格・需要の変動）の影響による国産材の再認識
- ・森林空間を多様な分野で活用する取り組みへの期待の高まり

○取り組み状況

- ① 主伐の推進
木材利用拡大 令和8年度目標 3,484m³
- ② 白川LSC（ローカル・サプライ・チェーン）システムの構築推進
- ③ 森林サービス産業の推進
上級キャンパー向け森林レンタルサービス

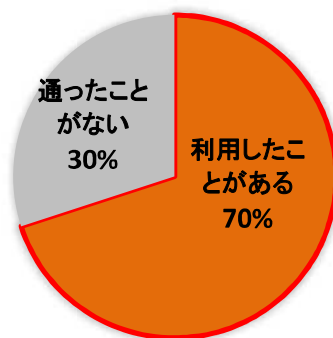
利用者・地域住民等への効果

職業



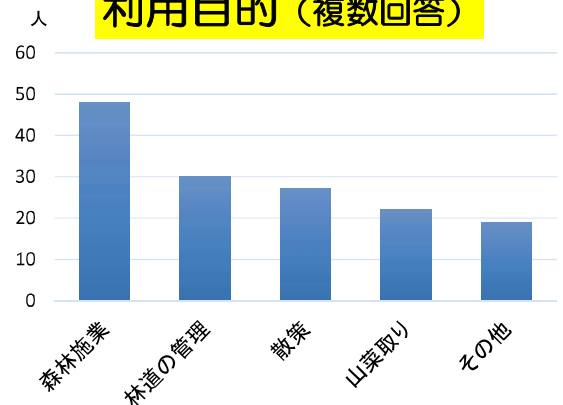
林業関係者以外が
8割以上

完成後の利用状況



地域住民の7割が
利用している

利用目的（複数回答）



森林施業、林道管理、散策、
山菜取りなど、7割が
森の活用のため利用している

□調査方法

林道のふもと集落世帯にアンケートを配布 【アンケート実施日:R4.6月上旬】

□調査結果状況

調査対象者数 153戸 うち有効回答数 122戸 回収率79.7%
(内訳：白川町69戸、東白川村53戸)

利用者・地域住民等への効果

林道加茂東線についての主な感想

- 山の手入れ（森林整備）にこの林道が有効活用できる。
- 林道ができたおかげで、林業をやってみたいという思いが高まった。これまで気付かなかった風景や自然等、地域の森のすばらしさを再発見できた。
- のり面ができたことにより、山への進入がしにくい。

林道加茂東線に対する主な要望、改善点

- 10年間程度で完成する林道をもっと作ってほしい。
- 林道を活用したイベント（自転車レース、ウォーキング）を実施してほしい。

対応方針（案）

○今後の事業評価の必要性

森林整備が計画的に実施されており、今後の森林整備計画もある



今の段階では、今後の事業評価は必要なし

○改善措置の必要性

アンケートの結果、多くの地域住民に利用されており、本線に対する改善要望はなかった。



今の段階では、改善措置の必要なし

○新規事業に適用すべき留意点

- 早期に効果が発現される林道の整備計画
- 林道の多面的利用の考慮

